

倉敷通信

物言へば唇寒しとか、雉子も鳴かずばうたれまい等いふ文句が新しい意味を持つ時代とはなつたが、當地に来て満3年を経た今日倉敷通信なるものに筆を執る気が起つた。多分小生のものとしては初めてであらう。

割合早起きの方で、此の冬より月に2,3回始めた早曉観測(小生の観測なるものが果してその名に値するや否やは讀者諸子の御賢察に任すとして)を行つた日以外は大抵ラヂオ体操をやつてゐる。やり始めた動機は後日にゆづるとして、もう一つ今年より始めたものに日記がある。これは現在の歴史的な時代に呼吸した生々しい記録に意義を認めたからではあるが、一つには本年還暦を迎へられた水野當天文臺主事に啓發される所があつたのである。水野氏は日記はなんでも14,5歳より續けられてゐるさうだし、その他冷水摩擦、就寝前の齒磨等、同氏に御尋ねすると立所にその開始年月を返答されるのであるが、小生はその場で何時も忘れてしまつて申譯ない次第であるが、とに角小生達の容易に眞似のできない程の年月を續けてゐられる。

御出勤の時刻は隣りの農業研究所にならつて冬は9時としてゐる。研究所の事もその内に御紹介したいが、「天界」が研究所へ送られてゐるのでめつたな事は書けない。4月よりは8時ださうだが、目下の所此方はさう急に早くは出勤できないが、花山の方々には想像もできぬ早さであらう。もつとも拙宅より研究室まで50米に足らず、清冽な小川に架る「月見橋」を渡ればよい丈であるが。

冬ならば小使に早變りしてストーヴをたかねばならぬ。掃除して少々灰をかぶつて燃付くまで30分は掛らう。ストーヴと言へば此の冬花山へ赴き、各自の研究室のストーヴを廢止圖書室に寄合つて一つストーヴで我慢し合つてゐるのを見、餘りに早くさう言つた時の來たのを感じ、我國の天文の前途を暗示するかの如き感慨に打たれたのであつた。

3月の観測日數13日、前月に比し天氣悪くなつた。參觀の團體ほつぽつあり、昨秋來のさびれ方を稍持直す。農研の櫻も五分咲き。(4月4日記)(K生)

各地の
たより

倉敷 大阪
大明星 商業
プラネタリウム

大阪プラネタリウムだより

★ 昨年3月開館されてより、又春が巡つて来て早くも一週を迎へる。入場者は今年に入つてから日増しに多くなつて來た。殊に宣傳も行届いて、學校團體の來館の激増は、天文教育の普及に尠なからぬ好成績が期待させられ、館長其他關係者は多忙に追はれながらも悦びの色を濃厚にしてゐる。

★ この一週を期して3月から5月にかけて、全館に涉り種々特別プランが實行されてゐるが、プラネタリウムに關しては、先づ山本博士の特別講演が毎月第2,4水曜日16時から開催されることになつた。これはプラネタリウム一般入場者中の熱心なフアンの要望に基づくもので、時季に適して選定された夫々の講演題目に従つて特別演出が行はれ、精細徹底せる天文指導は、アマチュア一般人士を特に悦ばせてゐる。

★ 少し舊報に屬するが、去る2月5日本館主催のもとに東亞天文協會員中より京阪神在住の有志を招待し、本館側も關係者列席し總28名でプラネタリウムに關する座談會を開いたが、種々眞摯な意見や批評を聴き、各位の熱誠な聲は有効な資料となつた。これは最近に於ける最も有意義な行事と見られた。尙又、プラネタリウムの伴奏レコード音楽に就いても、去る2月9日に O. D. A.(大阪ディスク協會) 會員の協力により有意義な一夜の座談會が開かれた。

★ 3月23日に第2回天文特別講演が開かれ演題の「地球世界の恵み」が、まざまざと聽講者の腦裏を刺激し、今更の様に地球が他の遊星世界に勝る我々の特權に感謝する面持ちに見られた。この夜、珍しく川柳雜誌社の麻生路郎氏等同人が集つて、『天體川柳會』をプラネタリウムを中心に開催し、席上「太陽」「月」等の即興作があり、又山本博士の「藝術家と天文」、高城の「星の美」其他の講話が行はれた。(T. T. 生)

□ 5月のプラネタリウム……時の話、日食と月食

□ 天文特別講演……5月11日「實用的な天文學」、25日「東洋の天文學」

明星商業學校天文部に就いて

大阪市東區玉造に近い眞田山に、鐵筋コンクリート三層建の洋館が小生の母校明星商業學校である。商業學校を卒業しながら天文に興味を持つた事も妙なコントラストであるが、其母校にしかも小生が全然知らぬ間に天文部が出来上つた事は

又々不思議な因縁と云はねばならない。そこに、氣象天文部（母校ではこれを合體して理科學會と稱してゐる）を創設された理科擔任の川上英先生を初め自然科學を愛好する部員學生諸君の努力を忘れてはならない。

天文部が出来上つて間もなくプラネタリウムで太陽觀測の指導に當つてもらった。この交渉も自分がやつたのでなく大口氏が當られたのだつた。この時に自分は、母校に天文部が出来た事を初めて知つた迂濶さだつた。

明星商業の理科學會は氣象部と天文部に大別され、氣象部が創設されたのは昭和6年秋で相當古く、且爲されてゐる觀測も堂々たるもので、「良い加減な地方測候所には負けないつもり」と自負される丈けに、氣象觀測器械は一通り以上揃つてゐるし、川上先生の熱心さと相まつて日々、9回の觀測結果は7年の歴史と共に輝いてゐる。しかし、天文部は開設されてから未だやつと1年を迎へんとする赤ん坊で、これは會員諸賢の御指導御鞭撻を御願ひしてゐる實情であります。今兩部の組織を一瞥しますと、

右の様に分れており各部の主任、部長、課長、課員は川上先生及生徒諸君によつて分擔され日々の觀測を勵み統計を取りつつ研究されてゐる。

本部は同校理科室におき、研究室は屋上氣象觀測室に置かれてゐる。尙、同校

觀測室を中央觀測所とし、生徒諸君各自の自宅を第1、第2……觀測所と稱して相提携相呼應しつつ觀測されてゐる。次に氣象天文兩部の概略を示すと……

氣象部——氣象一般に要する自記測候器械全般(頁の都合で詳細は略)、仕事として特記すべきは、測候所にても行はれない「雨滴」の研究をしてゐる事で



あらう。其他日々9回の観測等で、只費用の關係で測風氣球觀測日數が尠い點が遺憾とは川上先生の話。

天文部——以前から同校の一卒業生により寄贈されてあつた、五藤乙乙號屈折望遠鏡(25^m/m 口径シングル對物)を用ひておられたが、小生が今回26^o/mを新設したので11^o/m 反射手動赤道儀が空く様になつたのでこれを昨年末より使用して頂いて、太陽黒點、遊星面、變光星等を觀測されてゐる。

4月には同校で O. A. A. 大阪支部の例會が開かれると云ふので、川上先生初め部員生徒諸君のハリキリ振りは凄じい物がある。小生の母校でもあり、「明星」と云ふ校名からも、是非大阪、學校支部隨一の名實共に備つた學校支部となすべく、川上先生並びに生徒諸君の御精進を期待すると共に、諸賢の御指導をお願い致します。(伊達生記)

大阪支部通信

◆支部報第34號(三月16日) 用紙1枚, 150部發行.

◆三月第2回例會(20日) 電氣科學館5階圖書室にて大口庶務幹事司會にて開會, 坂元副支部長の挨拶あり, 是に答へて小島館長の挨拶, 山本會長代理として公文理學士の挨拶ありて正式に大阪支部は市立電氣科學館との提携が實現して臨時總會を閉ぢ, 一同は講演室に移りて田中氏の「電氣はどうして送られるか」, 公文理學士の「恒星の視線運動に就いて」の興味と指導の講演を聴き, 16時よりのプラネタリウムを見學す. 出席者22名にて盛會.

◆支部報第35號(四月1日) 用紙2枚, 150部發行.

◆四月例會(3日) 府立大阪測候所見學會として15時より開會, 先づ前田所長の「本邦測候事業の概略」に就いて測候所とはどんな仕事をしてゐる處かと言ふ天文同好者としても識つて置かねばならぬ話をされ, 續いて所長自ら一同を所内隅なく案内懇切に説明せられ一同裨益する處甚大, 滿腔の謝意を以つて閉會す. 出席者14名.

◆第2回プラネタリウム懇談會(四月3日) 測候所見學を終へてから有志は電氣科學館地階食堂に到り, 大阪支部主催となりて電氣科學館館長始め有志の方々を招待して第2回の懇談會の食卓を圍み, 兩者の隔意なき懇親が展開された. 館側出席者8名, 支部員有志出席者11名.

正誤. 4月號口繪「春の星座」に草馬修氏作とあるのは草場修氏作の誤り.